

CBDCフォーラム WG6資料

CBDCのエコシステムと水平的共存のパターン

株式会社野村総合研究所

2024/11/15

NRI

Share the Next Values!



0 弊社会社紹介

1 水平的共存のコンセプト ～財務省有識者会議の議論を参考に～

- CBDCは「中央銀行の負債」として発行される法定通貨建ての電子的なマネー
- 法定通貨建ての電子的なマネーとして現に存在する「民間デジタルマネー」と共存・役割分担の整理が必要

2 民間デジタルマネーと現金利用の状況

- 消費者には民間デジタルマネーが普及し、日常決済の67%がキャッシュレスとの推計も
- 一方、現金しか使えない店舗が存在するため、消費者は現金を持ち歩くケースが多い

3 水平的共存の具体的なイメージ

- エンドユーザーがCBDCを利用するシーンにおいて、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、CBDCと民間デジタルマネーの「使い分け」の面で、複数の利用イメージを想定し得る

4 ディスカッション

- 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

0. 弊社会社紹介

会社概要

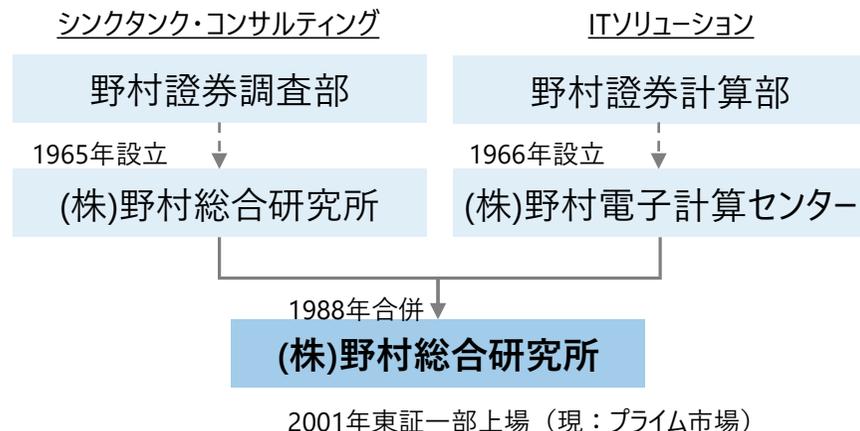
概要 ※資本金、株主、従業員数は2024年3月末時点

社名	株式会社野村総合研究所
創業日	1965年4月1日
社長	柳澤 花芽 (2024/4~)
資本金	256億円
株主	野村ホールディングス19.13%、 日本スタートラスト信託12.13%ほか
従業員数	単体7,206人 (グループ16,708人)
本社	東京都千代田区大手町1-9-2

連結売上高 2024年3月期

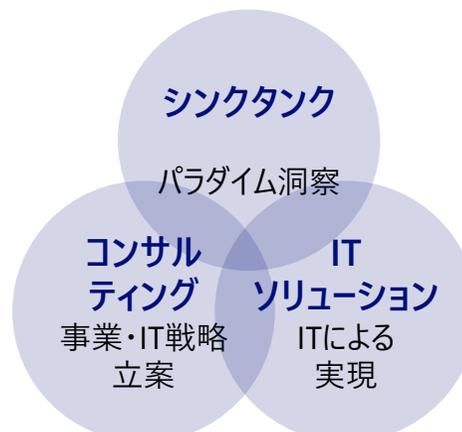


会社沿革



事業内容

パラダイムの洞察 (シンクタンク) から、事業・IT戦略立案 (コンサルティング)、ITソリューションまで一気通貫で提供するユニークなビジネスモデル



0 弊社会社紹介

1 水平的共存のコンセプト ～財務省有識者会議の議論を参考に～

- CBDCは「中央銀行の負債」として発行される法定通貨建ての電子的なマネー
- 法定通貨建ての電子的なマネーとして現に存在する「民間デジタルマネー」と共存・役割分担の整理が必要

2 民間デジタルマネーと現金利用の状況

- 消費者には民間デジタルマネーが普及し、日常決済の67%がキャッシュレスとの推計も
- 一方、現金しか使えない店舗が存在するため、消費者は現金を持ち歩くケースが多い

3 水平的共存の具体的なイメージ

- エンドユーザーがCBDCを利用するシーンにおいて、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、CBDCと民間デジタルマネーの「使い分け」の面で、複数の利用イメージを想定し得る

4 ディスカッション

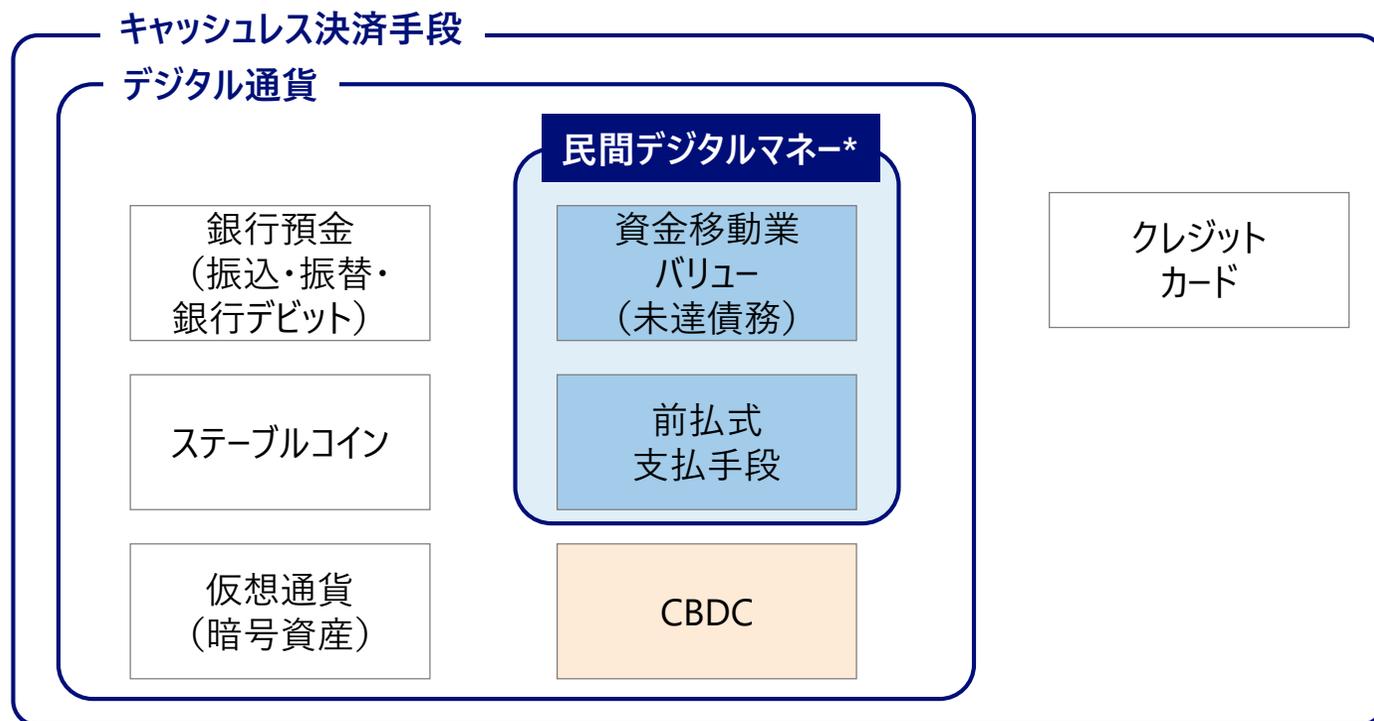
- 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

1. 水平的共存のコンセプト | はじめに

言葉の定義

- 本資料では、既存の決済手段について、以下の語句を用います。
 - **キャッシュレス決済手段**：「現金」を用いない決済手段を幅広く指す概念（第2章ではクレジットカードを含みます）
 - **デジタル通貨**：「キャッシュレス決済手段」のうち、決済時点でユーザーがデジタル形態のバリューを保持しているもの
 - **民間デジタルマネー**：「デジタル通貨」のうち、資金決済法に基づく資金移動業バリューと前払式支払手段
- 本WG（6）では、「民間デジタルマネー」を中心に取り扱っています。

本資料における言葉の定義

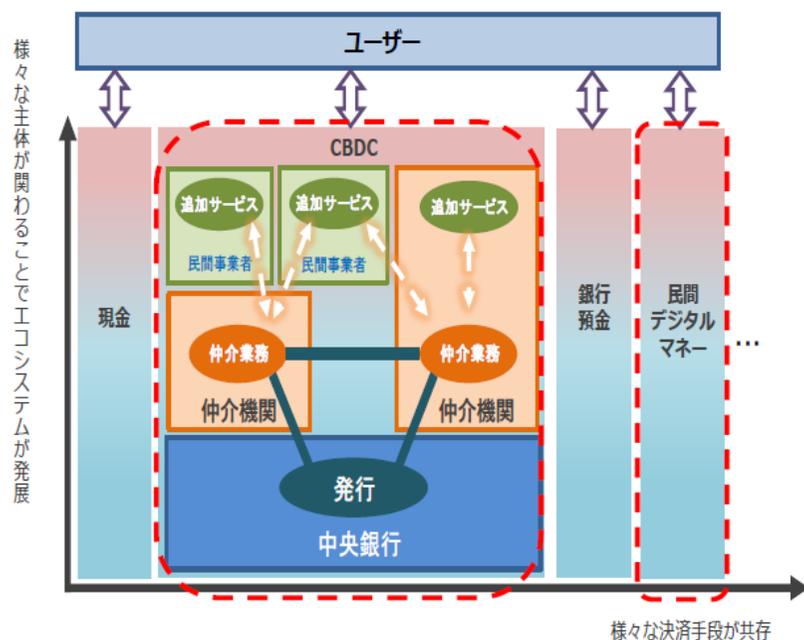


* 紙の商品券など、アナログ形態は除く

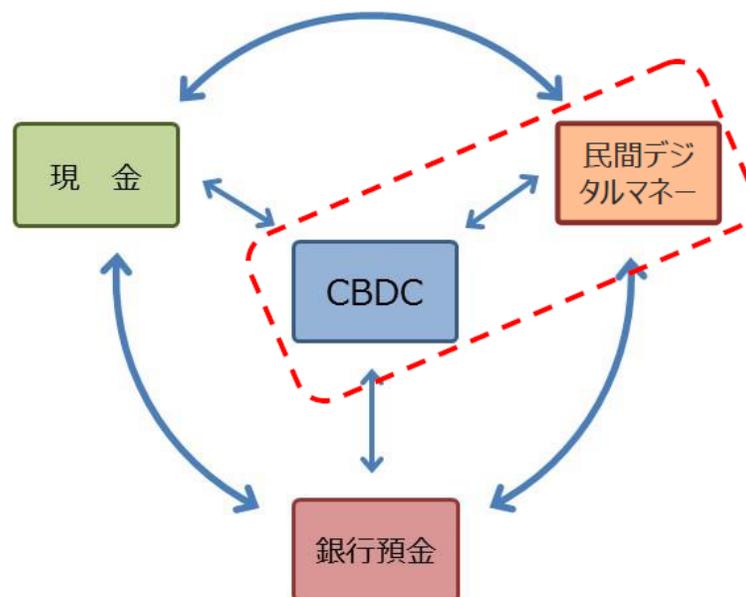
WG6における検討の範囲

- **WG6「他の決済手段との水平的共存」**では、主として、民間デジタルマネー（資金移動業マネー、前払式支払手段など）とCBDCの共存のあり方や、相互運用性などを議論の対象とする。

▽ 水平的共存、垂直的共存



▽ 相互運用性



1. 水平的共存のコンセプト | CBDCとは？

「CBDC」は、①中央銀行の負債として、②法定通貨建てで発行される③電子的なマネーである。このうち、①は他のデジタルマネーにはない特徴。

決済手段の比較

決済手段			CB (Central Bank)	DC (Digital Currency)	
			①中央銀行の負債	②法定通貨建て	③電子的なマネー
国内に 存在	デジタル 通貨	民間デジタルマネー (資金移動業、前払式)	×	○	○
		銀行預金	×	○	○
		ステーブルコイン*	×	○	○
		仮想通貨 (暗号資産)	×	△～× (法定通貨建てを標ぼうするものもあり)	○
	紙幣		○	○	×
まだない	CBDC		○	○	○

*国内では、資金決済法に基づく「電子決済手段」が定義されたものの、2024年11月時点で発行事例は見当たらず。

1. 水平的共存のコンセプト | CBDCとは？

「法定通貨建ての電子マネー（DC）」の面では、CBDCと民間デジタルマネーの差異は少ない。
「中央銀行の負債（CB）」の特徴を生かしたユースケースの検討が論点。

CBDCの特徴

※弊社仮説です

Central Bank（中央銀行の債務として発行）

紙幣と共通の特徴を持つ

- A 国民全員が利用可能（ユニバーサル性）
- B インフラコストは公的マネーでもカバー？
（例：紙幣印刷費619億円 2023年度）
- C 特定事業者の色がないバリュー
（民間Payにはない特徴）
- D 決済のファイナリティあり、
デフォルトリスクなし
（民間Payでは実現できない場合も）

×

Digital Currency（デジタル通貨）

紙幣とは異なる特徴を持つものの、
民間デジタルマネーとの差異は少ない

- ① 紙媒体がなく、デジタル完結
 - －紙幣のハンドリングコストなし
 - －ECでの利用
- ② 送金・支払の付加価値実装の柔軟性あり
 - －プログラマビリティ（DVP、PBMなど）
- ③ データ利活用（トレーサビリティ）
（プライバシーの観点では議論が必要だが、技術的には可能。
支払者・支払先の同意を得てデータ利活用するケースを想定）

1. 水平的共存のコンセプト | 国内のCBDC検討状況 | 概況

一般利用型CBDCについて、国内では、'20年以降、政府・日銀が検討を進めている。

- 日本国内では、政府政策の骨格を示す「骨太方針」2020年版でCBDCの検討が盛り込まれ、その後の骨太方針でも、政府（財務省）・日銀が検討を進めることを継続的に記載している。
- 日本銀行では2020年10月に「CBDC取り組み方針」を示し、概念実証やパイロット実験を実施。財務省側では、有識者会議や関係府省庁・日本銀行連絡会議を設置して検討を進めている。

国内CBDC検討の枠組み



財務省「有識者会議」は2023年12月に「取りまとめ」を公表し、役割分担等の課題を整理

財務省「CBDC（中央銀行デジタル通貨）に関する有識者会議 取りまとめ」の内容（概要）

有識者会議で検討した CBDC

※議論のための仮置き

- 電子マネーやQRコード決済同様、例えばスマートフォンアプリや物理カードを用いることにより決済を行うことが想定されているデジタル通貨
- 現金と同様、店舗における日々の買い物等、日常取引に幅広く使える（オンライン含む）

(1)日本銀行と仲介機関の 役割分担 (垂直的共存)

- 民間部門である仲介機関が日本銀行と利用者の中でCBDCの授受を仲立ちする「二層構造」とすることが適当であると考えられる。
- 仲介機関は、現在決済サービスを提供している銀行やその他の事業者が担いうる。

(2)CBDCと他の決済手段の 役割分担 (水平的共存)

既に便利な民間決済サービスが提供→CBDCとの共存・役割分担のあり方を考える必要

- ① 相互運用性 : CBDCは他の決済手段と円滑に交換
- ② 現金との共存・役割分担 : 当分の間、CBDCと現金は相互に補完
- ③ 銀行預金との共存・役割分担 : 預金→CBDCシフトの悪影響防止措置が必要
- ④ その他の決済手段との共存・役割分担 :
 - ✓ CBDCが他の決済手段を「支える」共通インフラの役割を果たすことで、各決済手段間の競争促進・ネットワーク効果の更なる発揮につながる。
 - ✓ 民間事業者のビジネスモデルに影響を及ぼす可能性。関係当局・関係事業者の間で十分な議論が必要。

(3)セキュリティの確保と 利用者情報の取り扱い

- 万全のサイバーセキュリティ対策・情報セキュリティ対策を講じる必要がある

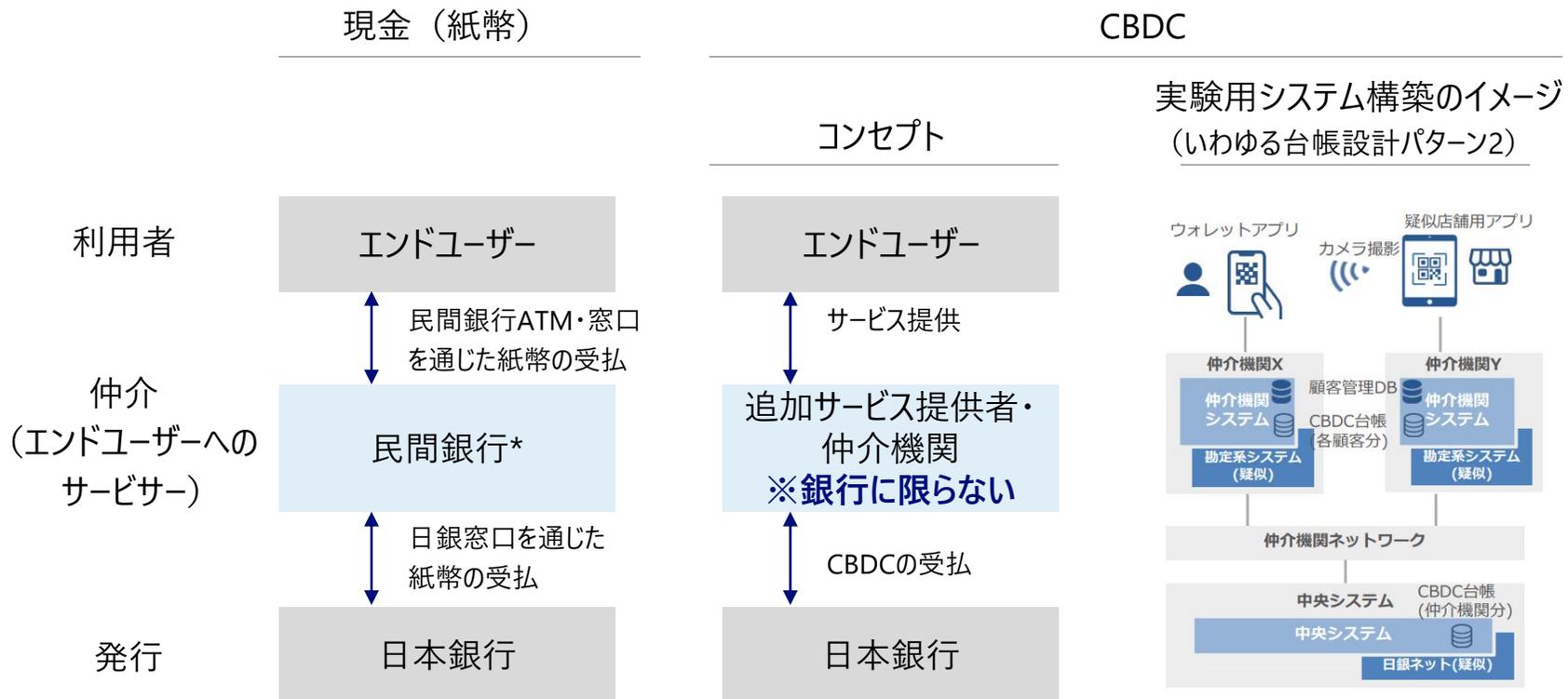
(4)その他

- 法令面の対応、コスト負担のあり方、クロスボーダー決済についても検討が必要

1. 水平的共存のコンセプト | 国内のCBDC検討状況 | 財務省「有識者会議」取りまとめより

二層構造の基本的な概念として、CBDCのエンドユーザー向けサービスは民間仲介機関が提供。

また、「有識者会議」取りまとめでは、仲介機関は銀行に限らないことを示している。
二層構造の概念（紙幣とCBDCとの対比）



注）CBDC導入時の具体的な構造は未決。上記構成図は日本銀行が2023年より実施する「パイロット実験」2本柱（CBDCフォーラム、実験用システムの構築）の1つである「実験用システム構築」における実装イメージ（いわゆる台帳設計パターン2）

*正確には当座勘定取引先が日本銀行との間で紙幣の受払が可能。

1. 水平的共存のコンセプト | 国内決済シーンの整理

「決済」において、送金元From、送金先Toとなる主体は、消費者(C)、法人(B)、政府(G)がある。一般利用型CBDCでは、消費者が「支払う」場合と「受け取る」場合がある。

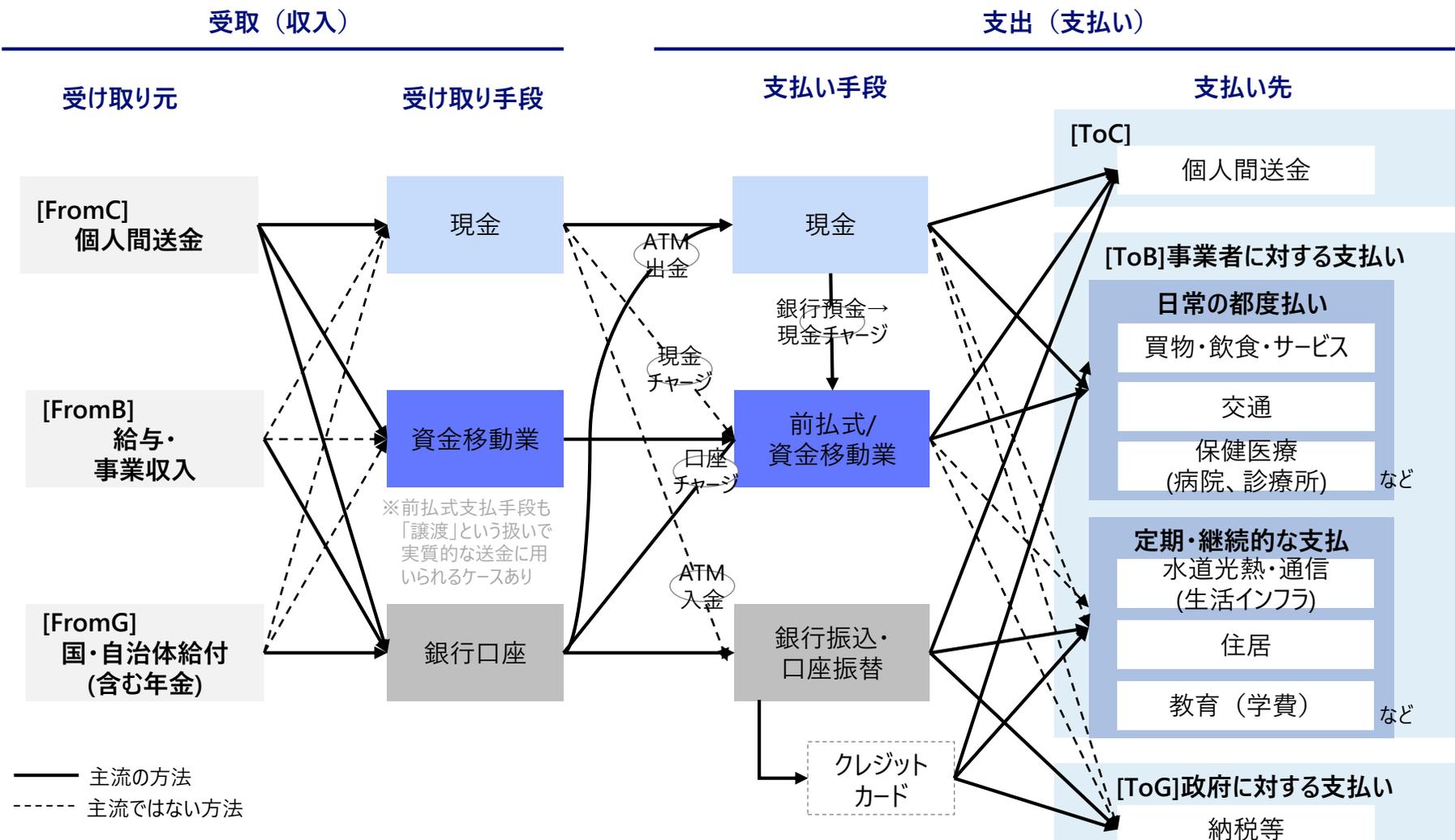
決済シーンの整理 ※民間デジタルマネー（資金移動業、前払式支払手段）が広く使われている領域

		送金先 (To)			
		C (消費者) ※消費者が受取	B (法人)		G (政府)
			零細～小規模	中堅～大規模	
送金元 (From)	C (消費者) ※消費者が支払い	<例> 個人間送金	<例> 中小小売・ サービスへの 支払	<例> 大規模小売・ サービスへの 支払	
	B (法人) 零細～ 小規模	<例> ・給与、委託費 ・経費 ・返品に伴う返金	<例> 事業者間 取引	<例> 零細～小規模 企業が仕入れ	<例> 公金収納 (税金等)
	B (法人) 中堅～ 大規模		<例> 下請け企業への 支払	<例> 大手企業間取引	
G (政府)	<例> 給付金	<例> 補助金、政府調達等		<例> 国⇄自治体	

1. 水平的共存のコンセプト | 国内決済シーンの整理

一般消費者の決済フローを可視化すると、現金や前払式/資金移動業、銀行口座が複雑に絡み合っている。CBDCが登場したときに、決済フローがどのように変わるのかが論点。

消費者目線 バリューの受取・支払フロー



0 弊社会社紹介

1 水平的共存のコンセプト ～財務省有識者会議の議論を参考に～

- CBDCは「中央銀行の負債」として発行される法定通貨建ての電子的なマネー
- 法定通貨建ての電子的なマネーとして現に存在する「民間デジタルマネー」と共存・役割分担の整理が必要

2 民間デジタルマネーと現金利用の状況

- 消費者には民間デジタルマネーが普及し、日常決済の67%がキャッシュレスとの推計も
- 一方、現金しか使えない店舗が存在するため、消費者は現金を持ち歩くケースが多い

3 水平的共存の具体的なイメージ

- エンドユーザーがCBDCを利用するシーンにおいて、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、CBDCと民間デジタルマネーの「使い分け」の面で、複数の利用イメージを想定し得る

4 ディスカッション

- 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

民間デジタルマネーの普及が進む。

多くの消費者は「利得性」「利便性」を重視してキャッシュレス決済手段を利用している。

数字で見るキャッシュレス決済の現状

日常消費のキャッシュレス決済比率*
(銀行振込・口座振替含む)

67%

QRコード決済利用率**

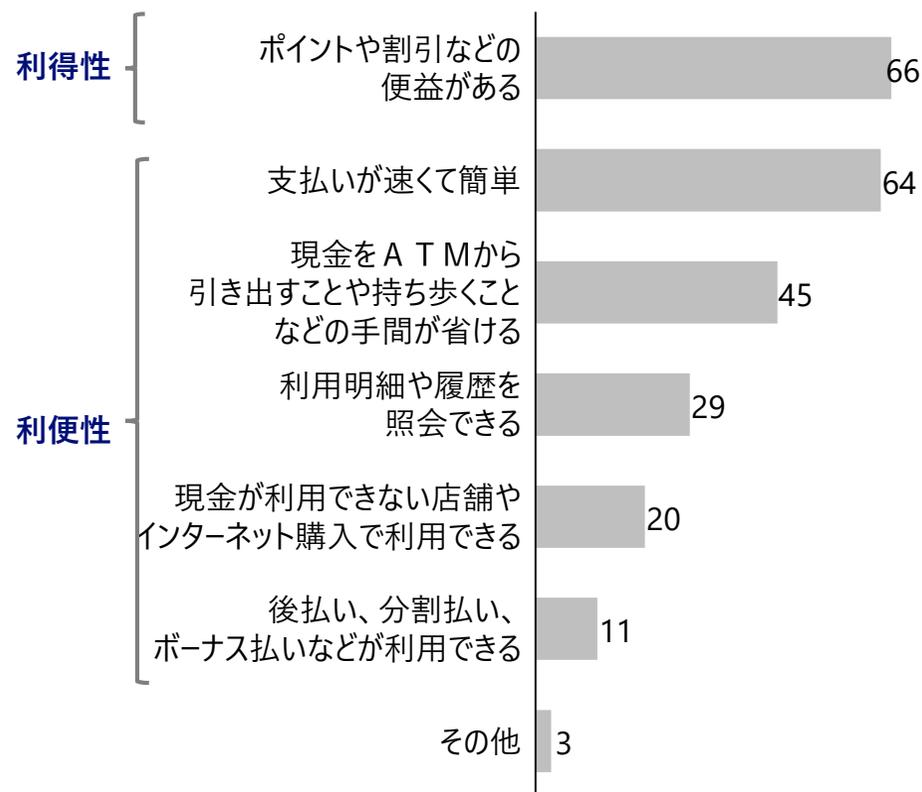
42%

電子マネー利用率**

32%

キャッシュレス決済利用の理由** (単位：%)

現金以外の決済手段を利用する理由は何ですか。
【複数回答】



* 経済産業省「消費者実態調査の分析結果」 (2023年3月)

** 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査 (第97回調査)」 (2024年4月)

2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

消費者は民間デジタルマネーに対して大きな不満はないが、「利用したかったお店で利用できなかったこと」を課題として挙げる声。現金のみ利用可能店舗も20%程度存在。

決済手段の不満（上位3つ）

以下のそれぞれの決済手段について、不満に思うところはありますか。あてはまるものをすべてお答えください（いくつでも）

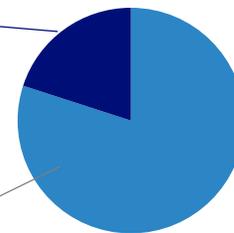
	現金 (n=7,295)	交通系ICカード (n=2,787)	QRコード決済 (n=4,248)
1位	困ったことやストレスに感じたことはない 76%	困ったことやストレスに感じたことはない 69%	困ったことやストレスに感じたことはない 62%
2位	持ち歩きが不便なこと 15%	利用したかったお店で利用できなかったこと 5%	利用したかったお店で利用できなかったこと 10%
3位	取引履歴の確認がしにくいこと 4%	登録しなければならない情報が多すぎたこと 5%	登録しなければならない情報が多すぎたこと 7%

キャッシュレス導入店舗の割合

小売り、飲食、宿泊、生活関連、娯楽の中小企業1031社におけるキャッシュレスの導入状況

キャッシュレス

非導入率20%
(現金のみ店舗)



キャッシュレス
導入率80%

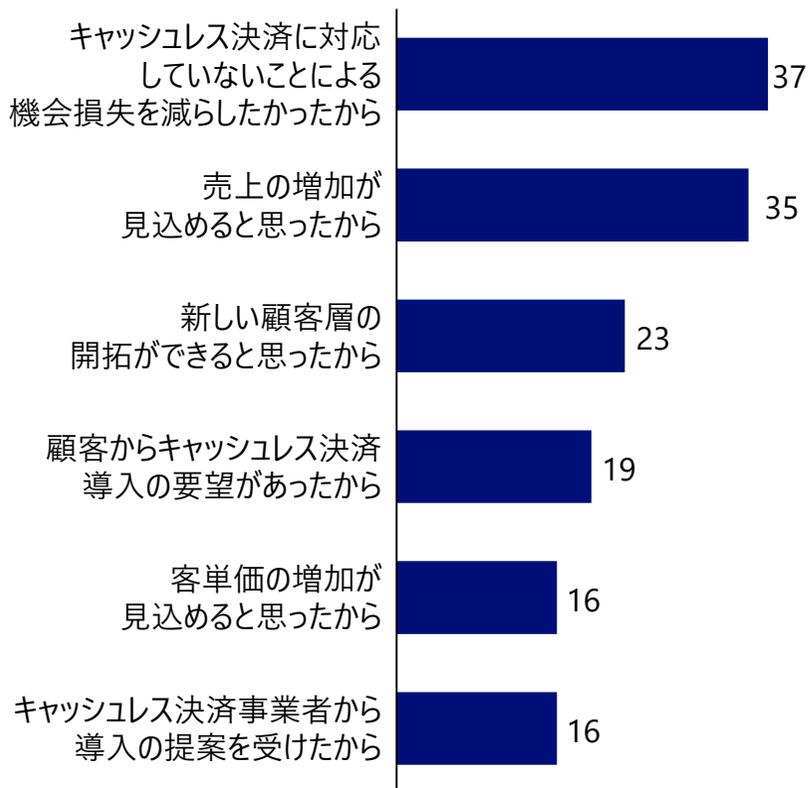
(クレカ63%、コード決済56%、
電子マネー30%、独自電マネ1%。
重複導入あり)

2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

売上増（機会損失の低減）を狙ってキャッシュレス決済手段を導入する店舗がある一方、現金のみで困っていないことや、決済手数料が高いことを理由に導入しない店舗も存在する。

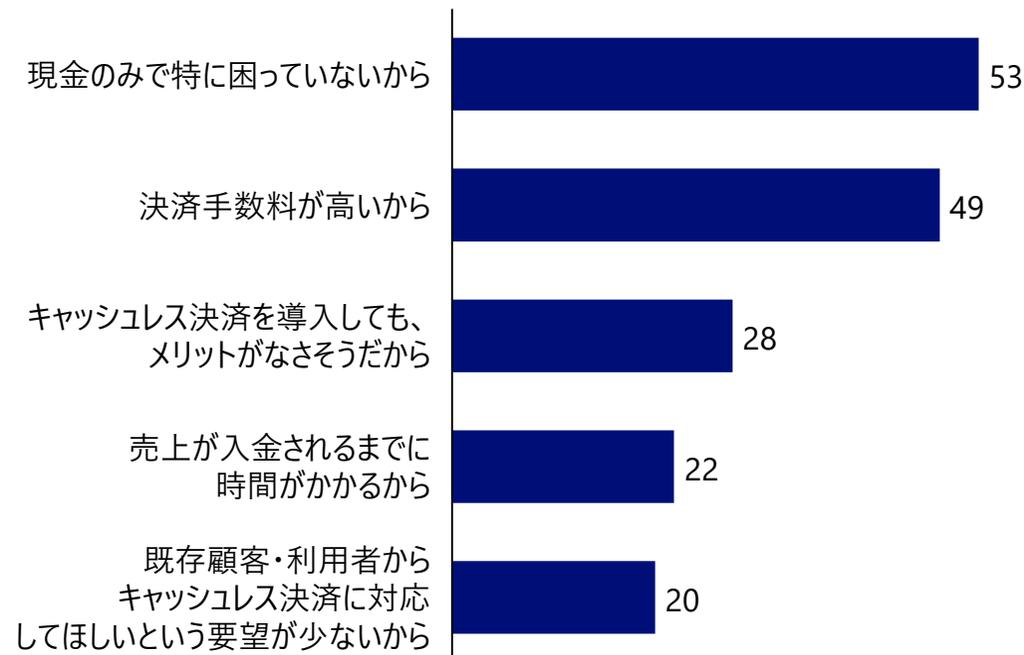
キャッシュレス決済導入の理由（単位：％）

あなたがお勤めまたは経営している店舗で、キャッシュレス決済を導入した理由について、当てはまるものをすべてお知らせください。



キャッシュレス決済未導入の理由（単位：％）

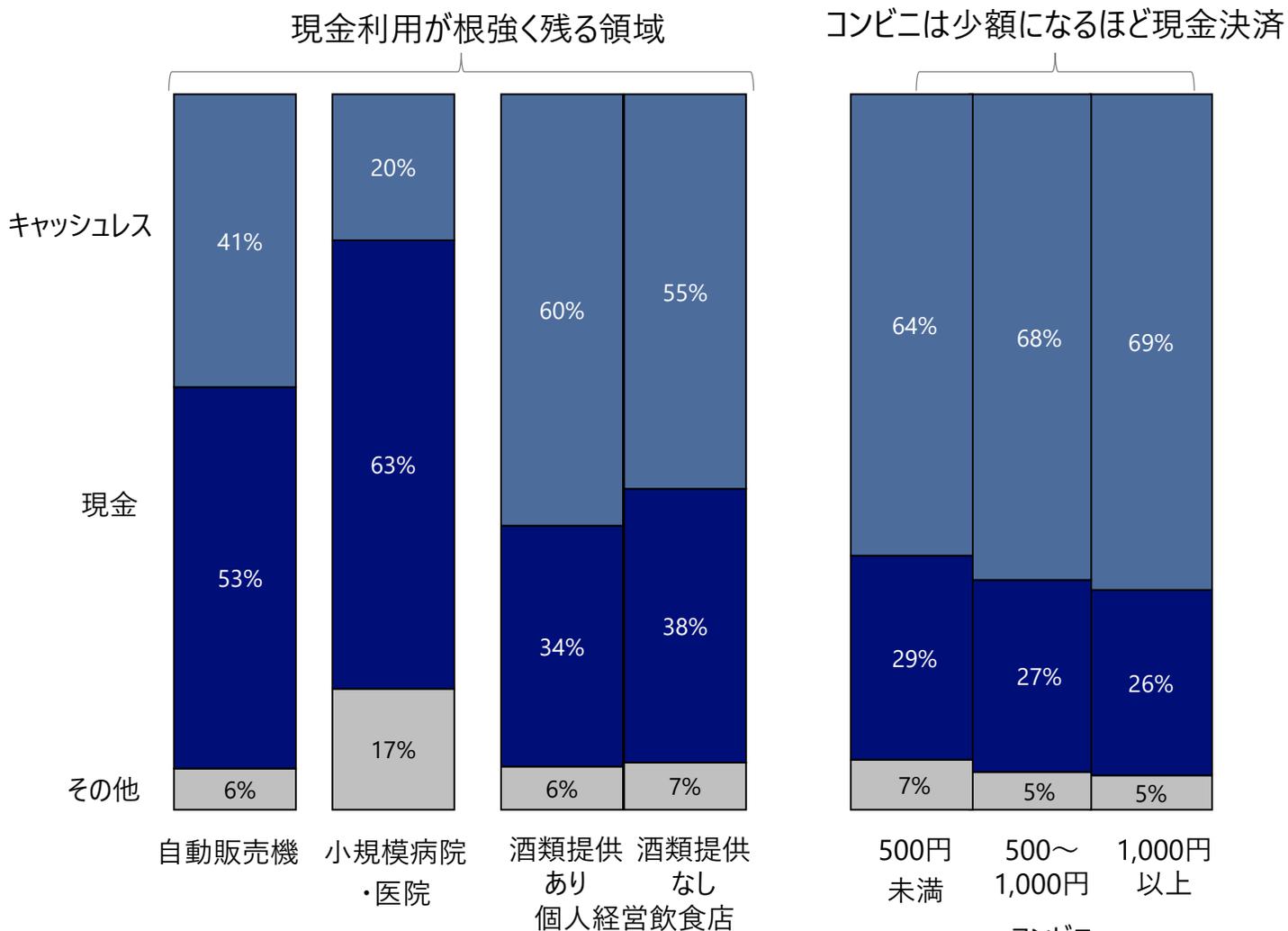
あなたがお勤めまたは経営している店舗で、キャッシュレス決済を導入しない理由について、当てはまるものをすべてお知らせください。



2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

自動販売機や医療機関、個人経営飲食店では現金の利用が根強く残っている。
民間デジタルマネー対応店舗（コンビニ等）であっても、少額の買い物で現金を使うシーンも。

「キャッシュレス派」消費者の支払先×支払額に応じた決済手段



2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

現金しか使えない加盟店が存在するため、消費者は民間デジタルマネー（クレカ含む）と、現金を併用しながら生活している。

都内在住・勤務の会社員（30代男性）の日常イメージ ※デフォルメ、一部フィクションあり

凡例

現金支払い

民間デジタルマネー払い
(クレカ含む)



2. 民間デジタルマネーと現金利用の状況

(参考) とある地域の民間デジタルマネー事情

本資料は当日プレゼンのみとさせていただきます

0 弊社会社紹介

1 水平的共存のコンセプト ～財務省有識者会議の議論を参考に～

- CBDCは「中央銀行の負債」として発行される法定通貨建ての電子的なマネー
- 法定通貨建ての電子的なマネーとして現に存在する「民間デジタルマネー」と共存・役割分担の整理が必要

2 民間デジタルマネーと現金利用の状況

- 消費者には民間デジタルマネーが普及し、日常決済の67%がキャッシュレスとの推計も
- 一方、現金しか使えない店舗が存在するため、消費者は現金を持ち歩くケースが多い

3 水平的共存の具体的なイメージ

- エンドユーザーがCBDCを利用するシーンにおいて、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、CBDCと民間デジタルマネーの「使い分け」の面で、複数の利用イメージを想定し得る

4 ディスカッション

- 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点概要

ユーザーがCBDCを利用するシーンを想定した、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、「使い分け」といった論点がある。

第3章で
ご説明

バリューの形態

第4章のグループ
ディスカッションテーマ

ユーザーはどのような**バリューの形態**で使うのか？
（「CBDC」を民間デジタルマネーにチャージ？
あるいは「CBDC」として使う？）

エンドポイント デバイス

ユーザーはどのような**エンドポイントデバイス**で
使うのか？（スマホ？ 物理媒体？）

第4章で
ご説明

「日常決済」 で用いる場合の 使い分け

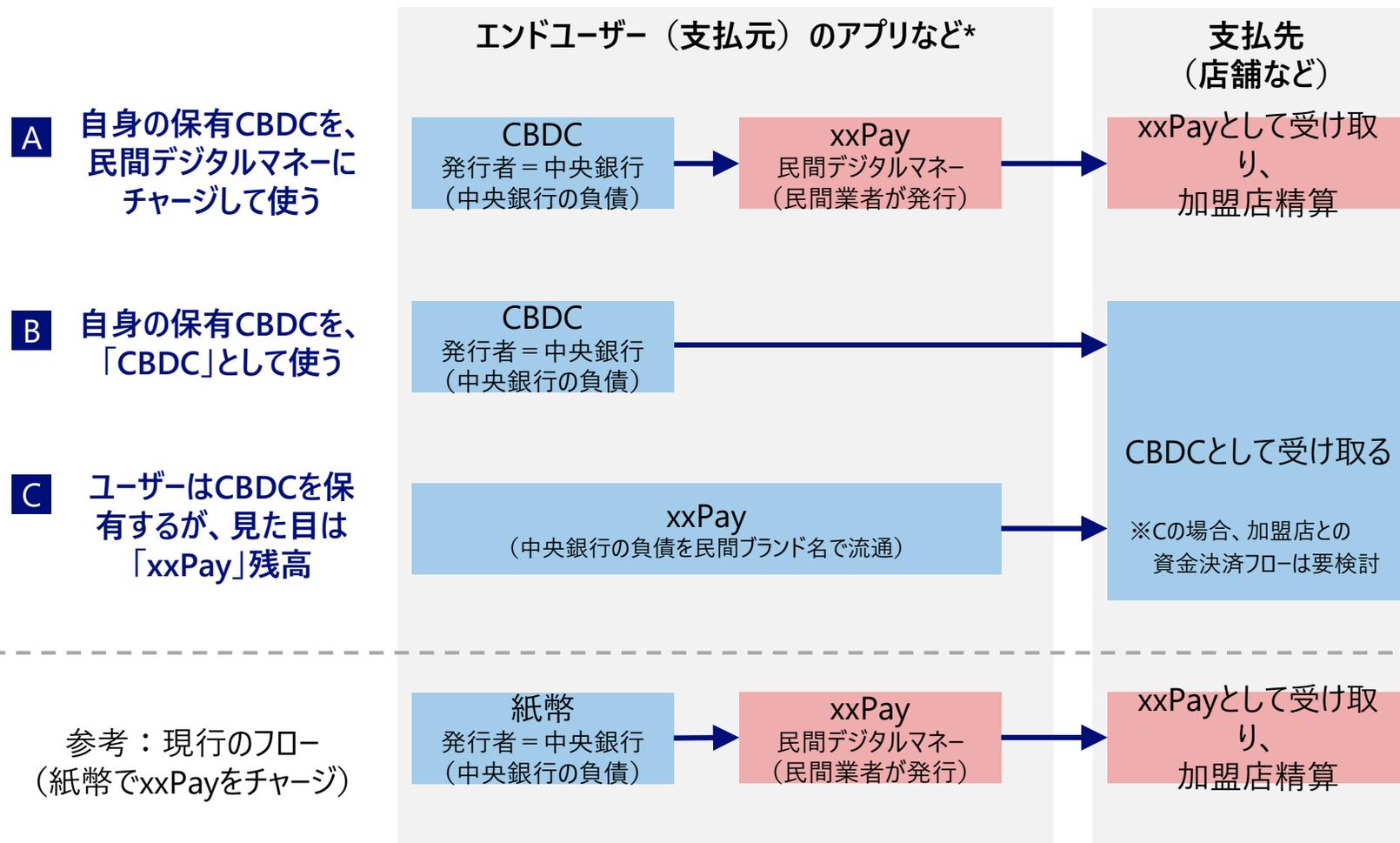
第4章のグループ
ディスカッションテーマ

ユーザーはCBDCと民間デジタルマネーを、
どのように**使い分ける**のか？

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：バリューの形態

CBDC利用方法は、民間デジタルマネーにチャージして使う (A)、CBDCのまま使う (B) ことが想定。さらに、理論上はユーザーは「xxPay」としてCBDCを使うパターンもありえる (C)。

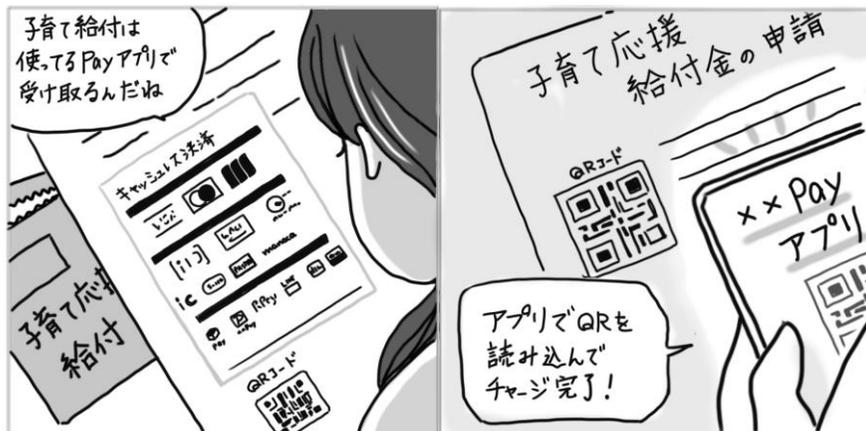
バリューの使い方イメージ



*アプリ以外に、物理カードも想定。ただし、パターンAの場合、物理カードだとUI/UXに課題あり (ユーザーから見てわかりにくい)

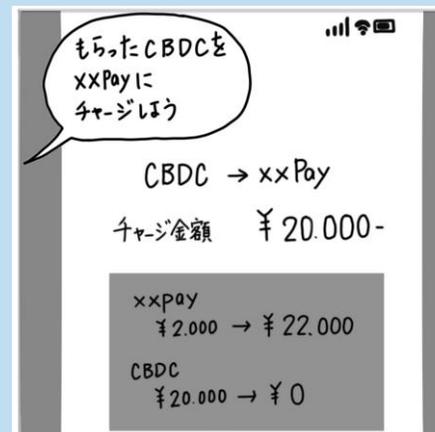
3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：バリューの形態 パターンA、Bのイメージ

CBDCバリュー保有（受取/チャージ）



支払

パターンA：支払時は「xxPay」にチャージして使う



パターンB：支払時は「CBDC」として使う



3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：バリューの形態

パターンCのイメージ

- CBDC = 中央銀行の負債を民間デジタルマネーのブランド名で使うイメージ



3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | 考えられるパターン

ユーザーのエンドポイントデバイスとして、媒体（スマホ or 物理カード）と、提供のされ方（相乗り or 専用）で4パターンが想定される。

媒体は何か？

スマホアプリ

物理カード

既存アプリ・
物理カード
に相乗り

i. CBDC×民間デジタルマネーのアプリ



iii. CBDC×民間デジタルマネーの
物理カード



ii. CBDC専用アプリ



iv. CBDC専用物理カード



提供のされ方

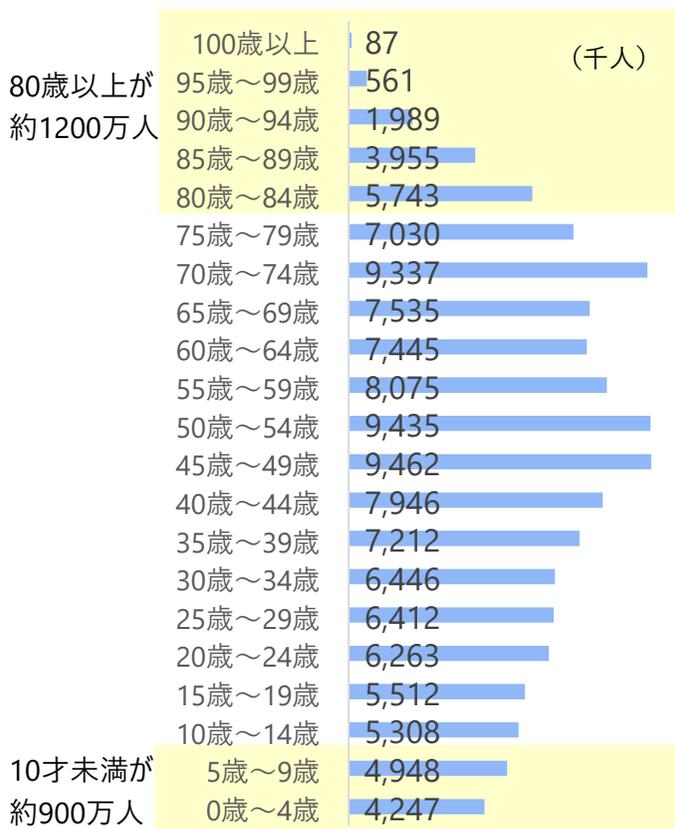
CBDC
専用

※ii, ivの場合であっても、アプリ・物理カードとも、仲介機関が提供する想定（二層構造）

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | 検討観点その1 スマホ非利用者

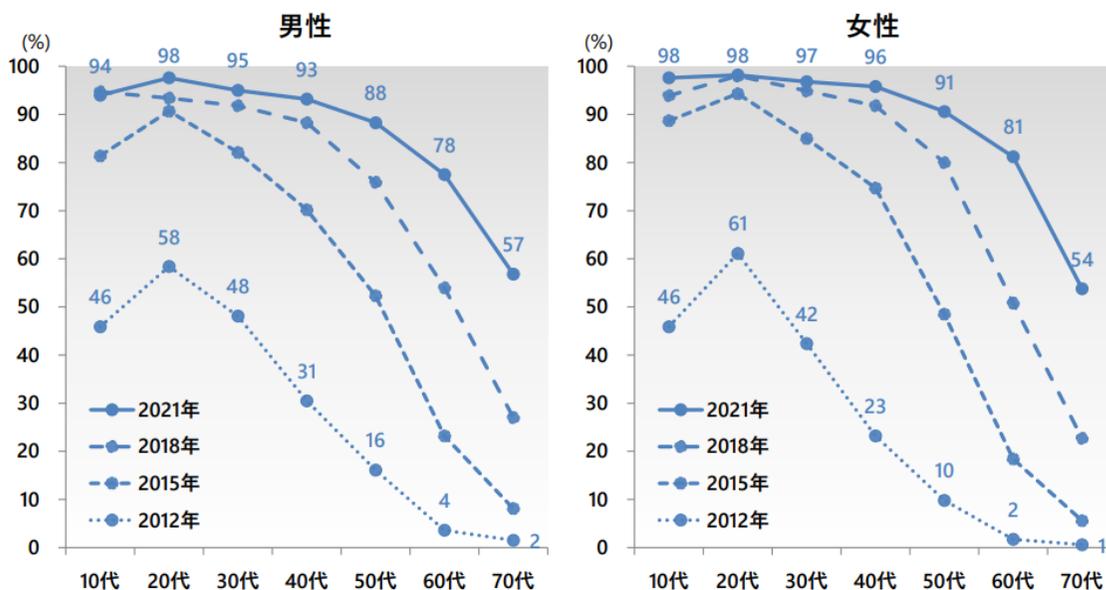
エンドポイントデバイスを考えるうえで、スマホを利用しない/できない層への配慮が求められる。とりわけ、高齢者、乳幼児、経済弱者に対する決済手段の提供方法が課題。

人口ピラミッド（2023/10/1時点）



出所) 総務省「人口推計」よりNRI作成

性・年代別のスマートフォン利用状況



出所) NRI「生活者1万人アンケート調査」(2021年)

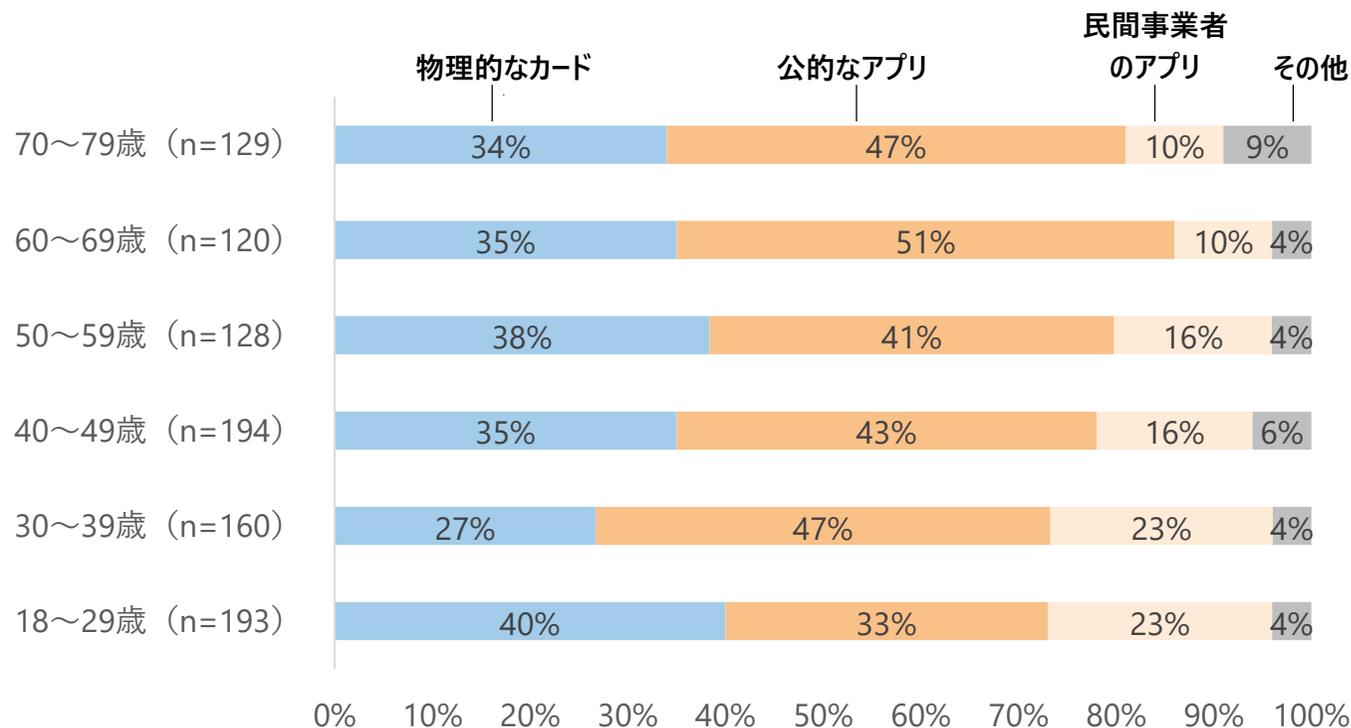
3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | 検討観点その2 消費者ニーズ

年代別にみると、60才未満の若年・現役層でも、3～4割程度は物理的なカードで利用したいとの声がある。

CBDCエンドポイントに対する消費者のニーズ

あなたは、CBDCを決済に利用する際、どのような形で利用したいと思いますか（答えは一つだけ）。

回答者：「CBDCを保有したい」「どちらかといえば保有したい」と回答した924人



出所) NRI独自Webアンケート (2024年3月、8,000人対象)

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | 検討観点その3 オフライン決済

日本国内では、地震や台風等の災害が発生して停電・ネットワーク途絶が生じた場合にも、決済の継続が求められる可能性。いわゆる「オフライン決済」にどのように対応するか。

オフライン決済のイメージ ※特にネットワーク途絶による「ユーザー」「店舗」双方オフラインをイメージ



- 震度7の地震が発生。
- ライフラインがストップ。停電してしまい、水道も使えない。スマホもネットにつながらない。
- 飲料水の備蓄がなかった。近くのコンビニは営業しているみたいだ。ただし、POSレジが止まっている。
- コンビニにはパニックになった人がいる。
- ある若者は、スマホのQRコード決済もクレジットカードも使えず困っている。
- また、あるおばあさんは、お財布に現金を入れていなかったみたいだ。
- でも大丈夫。
- スマホユーザーの場合、QRコード決済は使えないが、CBDCアプリの非常時タッチ決済（店員のスマホとタッチ）で、少額の支払いはできた
- お財布カードを持っていたおばあさん。
- CBDCの非常利用のために準備されていたエマージェンシー端末（手回し発電機で充電可能な決済端末。タッチで残高の引き去りが可能）で、支払いできた。

※財務省「CBDCに関する関係府省庁・日本銀行連絡会議 中間整理」（2024年4月）では、「オフライン機能については、例えば自然災害などによって生じる通信障害や電力途絶といった場面においてもCBDCの利用を可能にするものと考えられ、強靭性の確保に資する。一方、オフライン機能を提供する場合、CBDCの二重使用や偽造のリスクが高まることが考えられる。このため、オフライン機能については、今後の技術面における進展等を踏まえた上で、その内容や導入時期を検討することが適当であるが、現金が引き続き利用できることも踏まれば、CBDCの導入当初からオフライン機能を導入する必要は低いものと考えられる。」と整理。

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | 検討観点その3 オフライン決済

オフライン決済の実現にあたり、CBDCのバリューをオンライン上で管理するか、ユーザーデバイス上で管理するか、という論点がある。ローカルバリューの場合は技術的にはオフライン決済可能。

バリュー管理方法の比較・具体例

	スマホアプリ	物理カード
オンラインバリュー： 管理者のサーバーや、 ブロックチェーンに記録された 残高が正となるもの	スマホ決済など (xxPay)	銀行デビットカードなど
ローカルバリュー： ユーザーが保有する デバイス上に記録された 残高が正となるもの	チップバリュー (FeliCa、 NFC A/B)	交通系ICカード、 流通系ICカードなど
	磁気など	QUOカード、 テレホンカード など
	モバイル交通系 ICアプリなど	
	(なし)	

技術的には
オフライン
決済可能

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | CBDCアプリのイメージ

CBDCの発行を想定したアプリイメージ

本資料は当日プレゼンのみとさせていただきます

3. 水平的共存の具体的なイメージ | 論点：ユーザーのエンドポイントデバイス | CBDCアプリのイメージ (参考) 香港版交通ICカードOctopusのご紹介

本資料は当日プレゼンのみとさせていただきます

0 弊社会社紹介

1 水平的共存のコンセプト ～財務省有識者会議の議論を参考に～

- CBDCは「中央銀行の負債」として発行される法定通貨建ての電子的なマネー
- 法定通貨建ての電子的なマネーとして現に存在する「民間デジタルマネー」と共存・役割分担の整理が必要

2 民間デジタルマネーと現金利用の状況

- 消費者には民間デジタルマネーが普及し、日常決済の67%がキャッシュレスとの推計も
- 一方、現金しか使えない店舗が存在するため、消費者は現金を持ち歩くケースが多い

3 水平的共存の具体的なイメージ

- エンドユーザーがCBDCを利用するシーンにおいて、「バリューの形態」、「エンドポイントデバイス」、CBDCと民間デジタルマネーの「使い分け」の面で、複数の利用イメージを想定し得る

4 ディスカッション

- 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

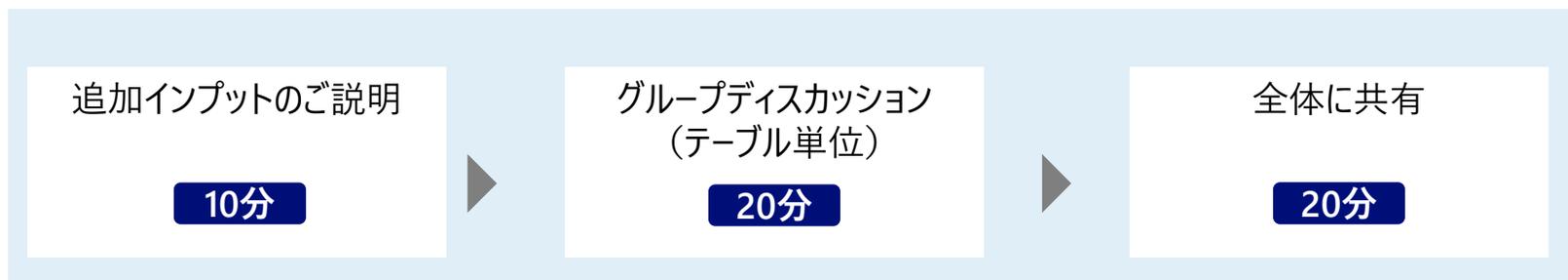
4. ディスカッション | 本日のテーマ

ディスカッションについて

ディスカッション内容

- ・ 「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- ・ 「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

進め方

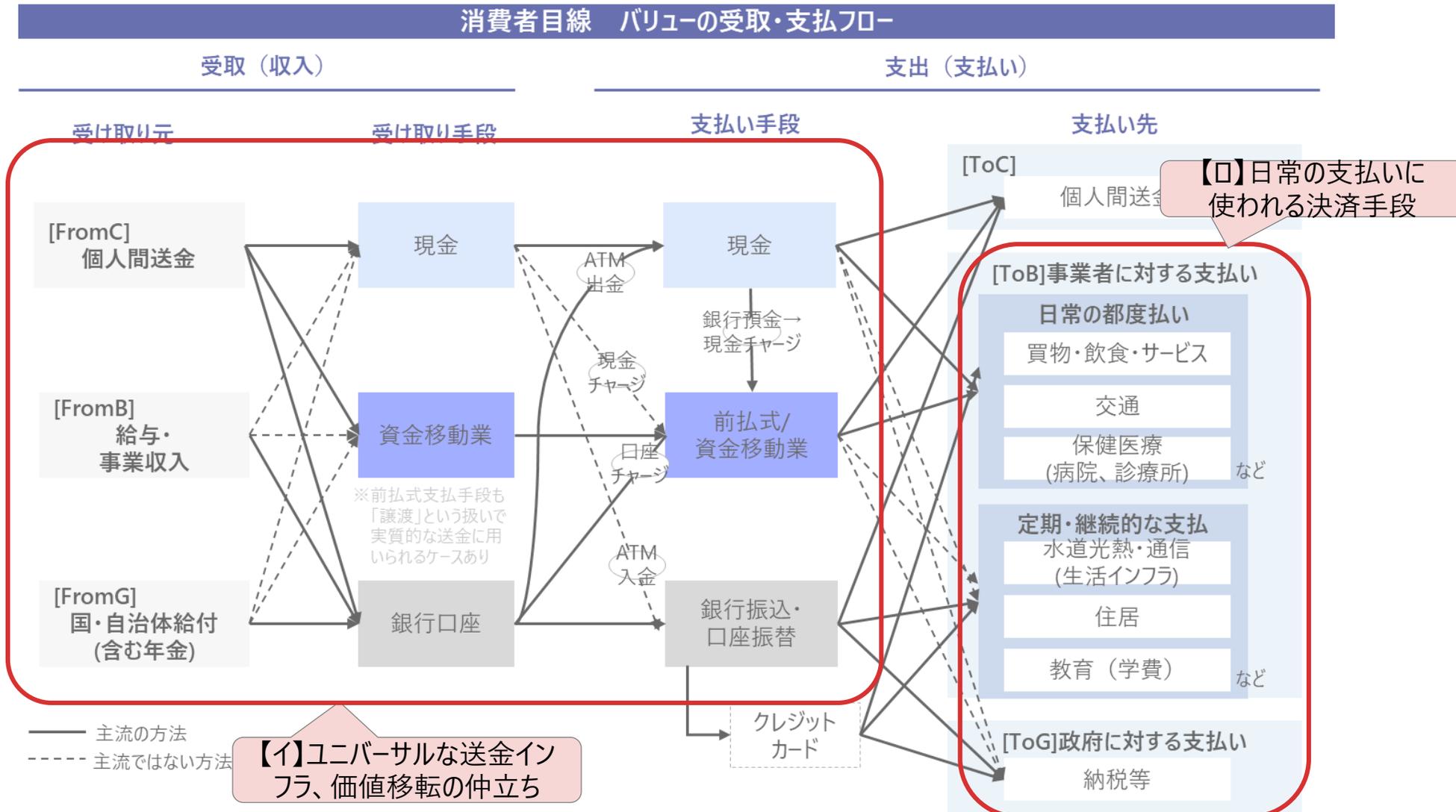


留意事項

- 各企業の公式な見解ではなく、「参加者個人の意見」をベースに自由な議論をお願いします。
- グループディスカッションでは、グループとしての統一見解を出す必要はありません。

4. ディスカッション | 追加インプット | CBDCの想定利用シーン

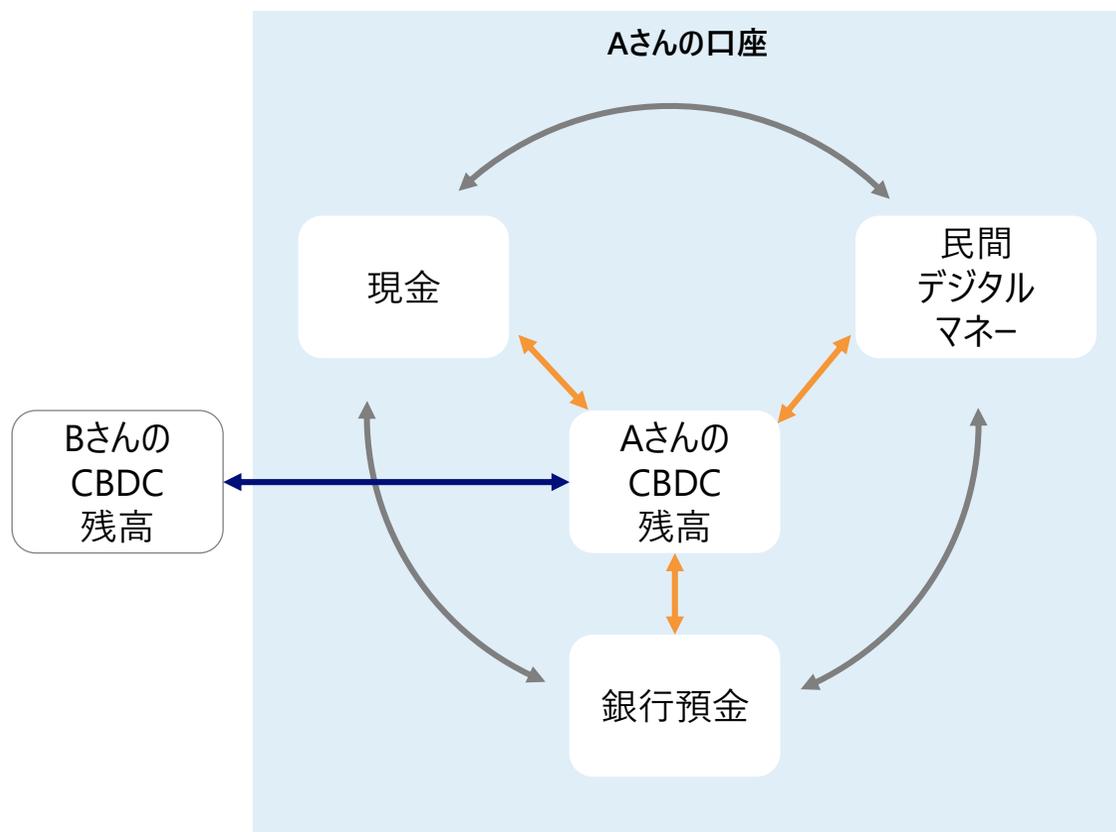
CBDCの利用シーンは、【イ】ユニバーサルな送金インフラ、【ロ】日常の支払いに使われる決済手段 が考える。



4. ディスカッション | 追加インプット | 【イ】ユニバーサルな送金インフラ・価値移転の仲立ち

CBDCがデジタル上のバリュー移転手段、および、各種デジタルバリューの間の価値移転を仲立ちする役割を担う可能性。

ユニバーサルな送金インフラ・価値移転の仲立ちの概念図

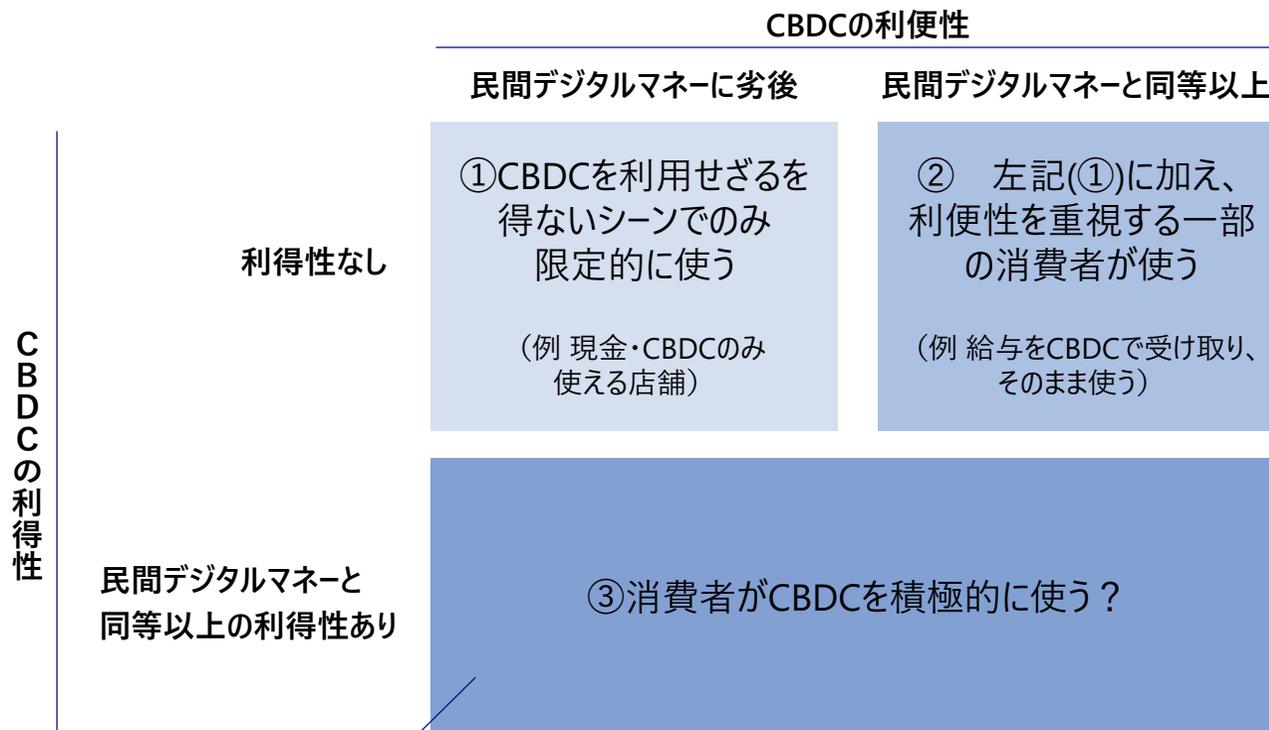


- CBDCが存在しない世界では、バリューの移転（灰色線）は民間事業者がコスト負担。→民間デジタルマネー事業者から見ると、「チャージコスト（from 銀行）」の負担が大きい
- CBDCが「送金インフラ」として存在する世界では、CBDCと他のバリューの移転（青矢印）および、CBDC間の移転（オレンジ矢印）のコストは、その一部または全てを公的負担の可能性

4. ディスカッション | 追加インプット | 【0】日常の決済手段

CBDCが「日常の決済手段」となる場合、消費者がCBDCをどの程度選好するかが論点。
CBDC商品性（利得性、利便性）によって消費者行動は大きく変わる可能性。

消費者の行動変容（CBDC移行）イメージ



利得性原資の想定

- ① 仲介機関が自ら負担
- ② 加盟店が自ら負担
- ③ 加盟店手数料から捻出

※利得性：ポイント還元や割引を受けられるなど何らかの経済的な便益を得ること。

4. ディスカッション | 追加インプット | 【ロ】日常の決済手段

前頁のシナリオ①②で理想的な行動変容が生じた場合は、CBDCと民間デジタルマネーが相互に補完しあうWin-Winの関係を築ける可能性。

最も理想的なシナリオの例

キャッシュレス派の消費者

- 主にキャッシュレス決済手段を使い（利得性の観点）、CBDCは「CBDCのみ店舗」でのみ使う。
現金を持ち歩かなくなり（現金→CBDCにシフト）、民間デジタルマネーの利用も増える。

現金派の消費者

- CBDCトリガーにキャッシュレス決済手段に移行後、利便性と利得性の観点で民間デジタルマネーに移行する消費者も多数

消費者の分類

		キャッシュレス派	現金派
事業者の分類	キャッシュレス決済手段（民間デジタルマネー等）にも対応する事業者	<p>CBDCにはシフトせず、民間デジタルマネーの利用が増える</p> <ul style="list-style-type: none"> • 利得性の面で、既存決済を使い続ける • 「現金のみ対応」店舗でCBDCが使えるば、現金利用が激減し、結果として民間デジタルマネーのシェア拡大の可能性 	<p>一部の消費者が現金からCBDCに移行。そのうちの一定数は利得性の観点で民間デジタルマネーに移行</p>
	現金とCBDCのみ対応（例：個人商店）	現金→CBDCにシフト	一部の消費者が現金→CBDCにシフト

4. ディスカッション | 追加インプット | 【ロ】日常の決済手段

シナリオ③で、CBDCにおいて現行キャッシュレスと同等か同等以上の利得性、利便性がユーザーに提供された場合、CBDCが民間デジタルマネーを侵食する可能性

最も悲観的なシナリオの例

CBDCの利便性・利得性が民間デジタルマネーを上回る場合には、キャッシュレス派/現金派とも、CBDCにシフトする可能性

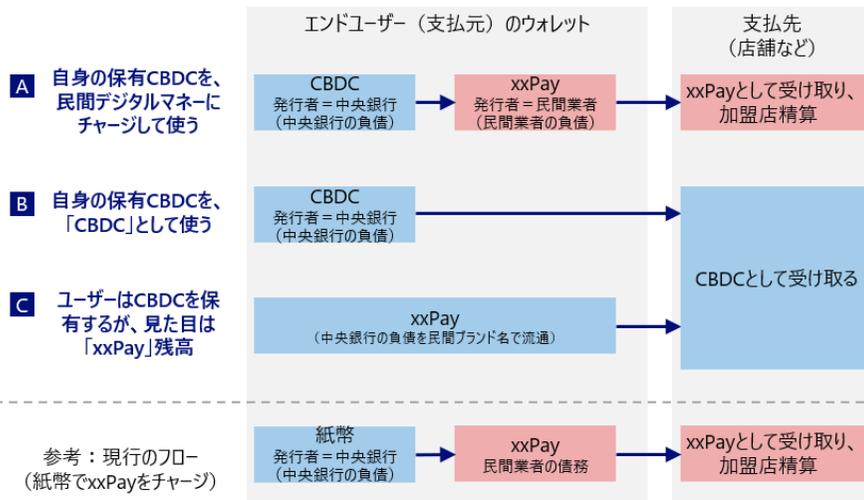
消費者の分類

		消費者の分類	
		キャッシュレス派	現金派
事業者の分類	キャッシュレス決済手段 (民間デジタルマネー等) にも対応する事業者	多くの消費者が 民間デジタルマネー →CBDCにシフト	「紙幣」にこだわらない 一部の消費者が 現金→CBDCにシフト
	現金とCBDCのみ対応 (例：個人商店)	現金→CBDCにシフト	

ディスカッションタイム（グループ20分→全体20分）

- ・「バリューの使い方」各パターンの利点・課題は？
- ・「日常の支払」で用いられる場合、民間デジタルマネーとCBDCのすみわけは？

「バリューの使い方」パターン



「日常の支払」で用いられる場合のすみわけ

	キャッシュレス派	現金派
キャッシュレス決済手段（民間デジタルマネー等）にも対応する事業者	民間デジタルマネー？ CBDCに移行？	民間デジタルマネー？ CBDCに移行？
現金とCBDCのみ対応（例：個人商店）	現金のまま？ CBDCに移行？	現金のまま？ CBDCに移行？

【観点】

- ・ キャッシュレス派の消費者目線で、CBDCを使う意義は？
- ・ 現金派の消費者目線で、CBDCをトリガーとしてデジタル移行する可能性はあるのか？
- ・ CBDC加盟店開拓の方法は？
- ・ 仲介機関や加盟店がCBDC優遇（CBDCが最もお得な決済手段化）する可能性は？
- ・ 民間デジタルマネー加盟店が減少する可能性は？（これまで「仕方なく」民間キャッシュレス決済に対応していた店舗が、キャッシュレスはCBDCのみに移行する可能性？） など

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

Share the Next Values!